

## 2. がん医療と診療情報 Cancer treatment and medical information

西本 寛\*

### 情報って、何でしょう？

情報化社会とか、IT（情報技術）、個人情報とかの言葉がしばしば私たちの周りで使われます。その意味は、というと、『一定の文脈の中において特定の意味をもつもの。意味のあるデータ。』（ウィキペディアから引用）というようにことになりますが、実際には、1) 集められる情報、2) ため込まれる情報、3) 伝えられる情報、4) デジタル化された情報 というような意味合いで用いられています。

- 1) 集められる情報（収集）：関心のあることについて、その状況などを集めます。多くの場合、このとき集められたものはそのものでは意味を持たないので、「データ」とも呼ばれます。
- 2) ため込まれる情報（蓄積）：集めた情報はそのままでは役に立たないので、他のデータと合わせられたりして、意味を持った狭い意味での「情報」に変えられて、ため込まれます。
- 3) 伝えられる情報（発信）：ため込まれた情報を理解できる形にして、伝えるべき相手に伝えます。このことで、自分の中だけでなく、広い意味で社会的に情報が意志決定などに利用されることとなります。
- 4) デジタル化された情報（IT化）：現実の世界では多くはアナログ量として存在する情報をデジタル化してコンパクトにし、より使いやすい形にする、いわ

ゆる「IT化」です。

日本の医療は、医者まかせの「おまかせ医療」から「納得医療」へと変化しつつあり、その「納得医療」を成り立たせる一つの鍵が「情報」といえますが、先に述べた4つの意味合いで、医療の場における情報のあり方を考えてみましょう。

- 1) 収集 医療者の側からいうと、患者さんの体の状況について話を聞いたり、さまざまな検査を通じたりして集めます。
- 2) 蓄積 集めた情報をバラバラの形でなく、診療録（いわゆるカルテ）などに書いてキチンと整理します。
- 3) 発信 蓄積され、情報として整理された内容は、患者さんに伝えられ、それを元に、行動を決定します。
- 4) IT化 紙などにかかれた形では整理しにくかったり、比較しにくかったりすることがあるので、デジタル化して、病院情報システムといわれる病院内の仕組みの中などに記憶されます。

また、これとは逆に、患者さんが自分の病気について情報を集め、ノートなどに整理して、それを元に医者に質問する、というような形も情報の使われ方としてあります。

### 診療情報と医療

医療にかかわる情報には、診療録に記される医師記録や看護記録のような情報の他にも、レントゲンなどの画像情報、血液の検査結果など

の臨床検査情報、お薬の処方内容の情報など、さまざまな情報があり、これらをまとめて「診療情報」と呼びます。従来、こうした情報は、診療録にかかれたり、貼られたりして、ため込まれて、それを元に、医師の頭の中で整理されてきました。しかし、情報の量がきわめて多くなってきて、一人の頭の中だけでは十分に整理できなくなり、看護師や薬剤師、さらには栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーなどのさまざまな職種が医療チームを作って、情報を共有して、医療をおこなっていくというのが、医療のスタイルとなってきました。さらには患者さんもこのチームに加わって、医療を進めていくのが、これからのスタイルだと思われまます。そして、この医療チームの結束を支えるのが、情報を共有した上で生まれる信頼関係だと思われまます。その意味で、医療の中で診療情報の果たす役割は、きわめて大きいということになります。

### がん医療における診療情報

がん医療だからといって、とりわけ特別だというわけではありません。患者さんからデータを得て、それを組み立てて、医療チームは情報として利用します。例えば、住民検診で胸のレントゲン写真に曇りが見つかったとします。それを診断した医師は「左上肺野に円形陰影」というような情報をつけて、紹介状を書きます。その紹介状を持って受診した病院で呼吸器科の医師は、レントゲン写真などを元に「肺がんの疑い」と考えたとしましよう。医師は患者さんに「肺がんの可能性もあるので、精密検査をしましよう。」などと説明をし、了解を得られれば、胸のCT撮影や腫瘍マーカーと呼ばれる血液の検査などを行います。そうした結果、さらに肺がんの疑いが高まれば、より確かながんの診断をするために、その病変部分の顕微鏡学的検査(病理学的検査)を行うために、気管支鏡というカメラの検査を勧めることとなります。気管支鏡検査でその病変が肺がん(腺がん)と

診断され、また、核医学検査などで転移の有無を確認した段階で、医師は病期の評価をします。これは、病巣の広がり、リンパ節への転移の有無、離れた臓器への転移の有無などのそれぞれの項目を確認し、ⅢA期とか、Ⅳ期とかを決まったルールに従って判定をし、その病期に対して標準的な治療ガイドラインを参考にして、患者さんの状態を総合的に判断して、治療方針の案を立てます。例えば、病巣の広がりがあまり広くなく、手術で取りきれそうだから手術がいろいろとあるから抗がん剤による薬物療法で治療を開始しようとかを考えて、患者さんに説明をします。ここまですが、がんの診断の過程ですが、このようにさまざまな情報を統合して、判断していくのが診断という過程となります。もちろん、このような判断は一人でせず、医師同士が情報を共有して、診療科カンファレンス(会議)などで議論をして、治療方針案を作ることとなります。

この後は、患者さんと相談した治療方針で、治療が進むこととなります。治療していく上では、さらにさまざまな職種がかかわることとなりますので、今まで以上に情報の共有化が重要になります。

がん医療の特殊性は、こうした治療において、患者さんの不安がとりわけ大きく、情報を過不足なく、患者さん・医療チームの間で共有できるかがきわめて重要となる部分にあります。

### がん医療とがん登録

さて、個々の患者さんの医療にかかわる診療情報の大切さは前述の通りですが、こうした医療を行っていく背景には、大切な情報基盤が必要です。例えば、治療ガイドラインをどうやって決めるか、病期分類をどうやって決めるかという問題があります。このような場合にはこうした治療が良いというようなことを決めるには、たくさんの患者さんの情報を集めて、その結果を評価する必要があります。また、Aとい

う治療をした場合とBという治療をした場合はどちらが有効か、などというような判断も、日本全体、世界全体で議論して決定していかねばなりません。そのような情報の収集については、製薬会社や研究会などが行う臨床試験、学会や研究会などが行う臓器がん登録と呼ばれる仕組みで行われています。

さらには、地域がん登録、院内がん登録などの仕組みを通じて、がんの患者さんやその患者さんに対して行われた医療にかかわる情報を収集して、各病院や地域でのがん診療がどういう状況なのか、より安全で効果的な医療はどうしていけばいいのか、日本全体ではどうしていけばいいかを評価していくことが求められています。日本全体でのがん医療の状況を明らかにし、それと個々の地域、個々の病院の状況を把握して、適切な対策を立て、がん医療を安心

して受けられる環境を作ることが、このがん登録という仕組みを活用することで可能になるのです。そのためには個人情報である診療情報を、保護しつつも、がん登録に活用することで、がんという病気を克服していく過程の道しるべとして上手に使っていく必要があります。情報化、情報管理という面で、日本の医療界は遅れているとしばしばいわれますが、診療情報をうまく管理していく体制を作っていく一つのモデルとして、がん登録を含めたがん医療にかかわる情報管理体制を作り上げていくことは、医療の現場を支える情報の基盤をかためることにつながります。人間の体でたとえると神経にあたる、この情報網をキチンと管理することこそ、がん医療を進化させ、安定したものにしていく第一歩だといえるでしょう。

## Summary

The medical treatment in Japan is changing from "Medical doctor initiative treatment" to "Patient initiative convincing treatment", and one key that composes the "Patient initiative convincing medical treatment" is Information.

Construction of an information infrastructure is important for cancer treatment. Information related to the medical treatment for the patients with cancer, which allow us to know the situation of the cancer diagnosis and treatment in each hospital and the region, can be collected through population-based and hospital-based cancer registration. The cancer medical treatment in Japan will be evolved steadily only if the information network is developed appropriately.